

第73回社会を明るくする運動月間 2023.7.1-7.31

■“社会を明るくする運動”とは？

“社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。令和5年で73回目を迎えます。

■地域のチカラが犯罪や非行を防ぐ

テレビや新聞では、毎日のように事件(犯罪)のニュースが報道されていますが、安全で安心な暮らしはすべての人の望みです。犯罪や非行をなくすためには、どうすればよいのでしょうか。取締りを強化して、罪を犯した人を処罰することも必要なことです。しかし、立ち直ろうと決意した人を社会で受け入れていくことや、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりをすることもまた、とても大切なことです。

立ち直りを支える家庭や地域をつくる。そのためには、一部の人たちだけでなく、地域のすべての人たちがそれぞれの立場で関わっていく必要があります。“社会を明るくする運動”では、犯罪や非行のない地域をつくるために、一人ひとりが考え、参加するきっかけをつくることを目指しています。

■あなたもできることから

始めてみませんか

“社会を明るくする運動”では、街頭広報、ポスターの掲出、新聞やテレビ等の広報活動に加えて、だれでも参加できるさまざまな催しを行っています。イベントに参加したり、このホームページを見たりしたことなどをきっかけにして、犯罪や非行のない安全で安心な暮らしをかなえるためいま何が求められているのか、そして、自分には何ができるのかを、みなさんと考えてみませんか。

■地域のチカラが犯罪や非行を防ぐ

テレビや新聞では、毎日のように事件(犯罪)のニュースが報道されていますが、安全で安心な暮らしはすべての人の望みです。犯罪や非行をなくすためには、どうすればよいのでしょうか。取締りを強化して、罪を犯した人を処罰することも必要なことです。しかし、立ち直ろうと決意した人を社会で受け入れていくことや、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりをすることもまた、とても大切なことです。

立ち直りを支える家庭や地域をつくる。そのためには、一部の人たちだけでなく、地域のすべての人たちがそれぞれの立場で関わっていく必要があります。“社会を明るくする運動”では、犯罪や非行のない地域をつくるために、一人ひとりが考え、参加するきっかけをつくることを目指しています。

■地域のチカラが犯罪や非行を防ぐ

テレビや新聞では、毎日のように事件(犯罪)のニュースが報道されていますが、安全で安心な暮らしはすべての人の望みです。犯罪や非行をなくすためには、どうすればよいのでしょうか。取締りを強化して、罪を犯した人を処罰することも必要なことです。しかし、立ち直ろうと決意した人を社会で受け入れていくことや、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりをすることもまた、とても大切なことです。

立ち直りを支える家庭や地域をつくる。そのためには、一部の人たちだけでなく、地域のすべての人たちがそれぞれの立場で関わっていく必要があります。“社会を明るくする運動”では、犯罪や非行のない地域をつくるために、一人ひとりが考え、参加するきっかけをつくることを目指しています。



第73回“社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と立ち直りに ついて理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、明るい地域社会を 築くための全国的な運動です。

これまでたくさんの方々の御尽力を賜り、ありがとうございます。おかげさまで 今年で73年目を迎えました。犯罪や非行の背景には、望まない孤独や社会的孤立など、社会における様々な “生きづらさ”が存在していることが少なくありません。その“生きづらさ”に寄り添い、人と人が互いに支え合うコミュニティを築くことが、安全で安心な明るい 社会の実現につながっていきます。

本運動を通じて、保護司をはじめとする民間協力者、そして、地域の多くの方々に 御理解と御協力をいただきながら、“生きづらさ”を抱える人、再出発を図ろうとする人を受け入れることのできる、包摂的な社会の実現を目指し、犯罪や非行の防止と 立ち直り支援に取り組んでまいります。

本年、第二次再犯防止推進計画が策定されました。新たな計画に基づき、国や地方公共団体が一体となって、再犯防止に向けた取組をより一層力強く 推進していくことが重要です。

国民の皆様には、“社会を明るくする運動”の社会的意義を御理解いただき、 犯罪のない明るい地域社会づくりに取り組む決意のしるしである「幸福の黄色い羽根」のもと、本運動に御参加いただきますよう御協力を
お願いいたします。

内閣総理大臣 岸田 文雄

FC 東京と連携した広報活動 7月1日(土) 会場：味の素スタジアム

FC 東京を応援しよう 11月25日(土) 会場：味の素スタジアム 午後2時キックオフ

駅頭広報活動

7月3日(月) 午後6時～7時
調布駅、国領駅、つつじヶ丘駅、仙川駅
グッズを配布した PR

調布市のテーマ 調布市立第八中学校・作
笑顔あふれる街、上映中
～地域で守ろう私たちの絆～



中学生意見発表会

11月25日(土) 午後2時～4時30分
調布市文化会館たづくり12階 大会議場
市内の公立・私立全12校の代表生徒12名がスピーチ
中学生の目線で感じた率直な意見を発表します



調布市立第八中学校
代表 生徒会長 長谷川碧



掃除で心も未来もきれいに

長谷川 碧

「グリーンプロジェクト」それは私の通う学校で年に2回ほど開催される、生徒会主催の地域清掃活動である。有志の生徒と先生とが一丸となって地域のゴミ拾いをするのだ。

私は最初、どうして他人の出したゴミを拾わなければならないんだろう、ゴミ拾いなんて面倒くさいだけだと思っていた。しかし友達に誘われて実際にやってみると、自分で一つゴミを拾っていくごとに周りがきれいになり、とても気持ち良かった。まばらに散らばっているゴミのせいで、雑然とした雰囲気だった場所が、ゴミを拾ったことですっきりと見え、爽やかな気分になっていったのだ。

参加者全員で協力し、一生懸命に掃除をしていくと、きれいにした場所に自然と愛着が湧いて、これからも私達の住むこの地域を大切にしていこうと思った。一通りゴミを集めて帰ろうとしていた時、通りかかったおばあさんが嬉しそうにこう言った。「きれいにしてくれてありがとう。ゴミがなくなってすっきりしたわ。」私はこの言葉を聞いてお礼を言われたことへの気恥ずかしさを感じつつも、心が温かくなっていった。

家に帰って母にこのことを話すと、「地域をきれいに掃除すると、人の心も明るくなるね。」と言ってくれた。私は改めてこの活動に参加して良かったなと思った。続けて母はこんな話を教えてくれた。

「ニューヨークの地下鉄は昔、とっても怖い乗り物だったそうだよ。それが掃除の力で変わったんだって。」

私はこの掃除の力とは何のことだろうと疑問に思い、インターネットで調べてみることにした。ニューヨーク、地下鉄、犯罪、減少などと、いろいろな言葉を並べて検索してみた。すると、「ニューヨーク地下鉄理論」「犯罪件数減少につながる掃除」といった選択肢が出てきた。これらについてもっとくわしく調べていくと、「割れ窓理論」という言葉が出てきた。割れた窓をそのままにしておくと、その建物は十分に管理が行き届いていないのだと思われてしまう。そうすると、やがてゴミが捨てられるようになり、地域環境が悪くなって、凶悪犯罪が多発する町になってしまうという犯罪理論だ。昔のニューヨークの地下鉄がまさにこの状況だったようで、最初は一つの落書きから始まり、それがどんどん増えて、ついには電車の中のいたる所が落書きとゴミだらけになってしまったそうだ。こうしてニューヨークの地下鉄はとても治安が悪く、電車に乗ったら、必ず犯罪に巻き込まれる世界一危険な乗り物とまで呼ばれるまでになってしまったのだ。そこで、当時のニューヨーク市の市長だったジュリアーニさんが、画期的な取り組みを行った。割れ窓理論を応用し、地下鉄の落書きとゴミを徹底的に取り締まったのだ。これにより、だんだんと地下鉄がきれいになっていき、ゴミを散らかしたり落書きをしていったりする乗客が減り、ゴミがあったら拾ってきちんとゴミ箱に捨てる人が増えたそうだ。地下鉄がきれいになったことで治安や環境が良くなり、殺人や強盗などの凶悪犯罪が大幅に減り、安全な乗り物になっていったそうだ。

私はこの事例を知り、掃除の力はすごいなと感動した。町がきれいになれば、きれいに使わないと思うようになるし、ゴミがあれば拾ってあげようという気持ちにもなる。そして良い事をした本人の気分も良くなり、そのきれいな町を見て、他の人の気分も良くなっていくのだ。きれいな町は住人がしっかりと管理をしていると思われ、空き巣なども入りにくくなるだろう。つまり、まわりまわって犯罪も減っていくのではないだろうか。私1人の力では今すぐに犯罪や非行をなくすことはできないだろう。けれど、ゴミを拾うなど、地域をきれいにすることは犯罪抑止力になって、なんらかの波及効果が必ずあるはずだ。どんなに小さなことでも、自分にできることを少しずつやれば、社会はよりよいものに変わっていくと思う。小さな行動だけれど、身近なところ、自分達の暮らしている町をきれいに保つことで、心が荒む人を減らし、犯罪が減っていけばいいと思う。